

**平成 28 年度「県と市町の地域づくり連携・協働協議会」(地域会議)
1 対 1 対談 (四日市市) 会議録**

1. 対談時間

平成 28 年 8 月 18 日 (木) 11 時 30 分～12 時 30 分

2. 対談場所

四日市市中消防署中央分署 3 階 多目的ホール
(四日市市曾井町 3 9 1 番地 2)

3. 対談市町名

四日市市 (四日市市長 田中 俊行)

4. 対談項目

- 1 産業振興について
- 2 学力向上について
- 3 シティプロモーションについて

(1) 挨拶

知 事

まず、5 月 26 日に開催されました伊勢志摩サミットにおきまして、田中市長をはじめ、四日市市の皆さんに大変ご尽力を賜りました。食材におきましても、ワーキングディナーで松阪牛のフィレ肉の上にかかっていた伊勢茶は、四日市から出していただいたものでありましたし、ワーキングディナーの乾杯においては、萬古焼きを使っていただきました。また、カクテルタイムにも「宮の雪」を使っていただくなど四日市の皆さんにも多大なご協力をいただきました。

合わせて、国際会議という観点では、今年 2 月に田中市長にもご協力いただきました。I C E T T の 25 周年で A S E A N 10 カ国の皆さんにお越しをいただいて、四日市フォーラムを開催させていただきました。大変多くの皆さんが、この四日市の公害をはじめとした環境に取り組んできた姿勢、あるいは、I C E T T での取組、そういうものに感銘を受けていただいております。ぜひ、こういう動きを、このサミットを契機に、この国際会議の誘致に関連して、四日市で環境のフォーラムが、A S E A N を中心として開催できるように、これからも取り組んでいきたいと思っておりますので、田中市長をはじめ四日市の方にこれからもご協力を賜ればと思います。

あわせて、ジュニアサミットで四日市公害と環境未来館のほうにも行っていただきましたので、こういう世代の皆さんの教育旅行、こういうとこ

ろにも力を入れてやっていきたいと思っておりますので、これからもお力をお貸しいただければと思います。

それでは、きょうは限られた時間ではありますが、有意義に過ごしてまいりたいと思っておりますので、どうぞよろしく申し上げます。

(2) 対談

1 産業振興について

四日市市長

知事には、毎年、この1対1対談の機会を設けていただき、ありがとうございます。

きょうは3つの項目について、私から意見、要望等を申し上げるわけですが、テーマを3つに絞りました。中身がこれまでの取組の紹介もありますので、かなり時間がかかります。早速、各テーマについての発言に移らせていただきたいと思います。

私が市長に就任してから、一貫して産業と文化、そして、「産業と環境が調和する魅力と風格を備えた都市 四日市」、これをまちづくりのビジョンとして位置づけまして、政策や施策を実現し、実行してまいりました。そうした取組こそが、四日市市の総合計画が掲げる都市像である「みんなが誇りを持てるまち 四日市」、これを実現する近道だと私は確信をしております。その基本的な方針、ベクトルを踏まえて、まず、四日市市の大きな強みであり、今後も本市が持続的に発展を遂げていくために非常に重要な要素である産業振興というテーマで発言をいたします。

これまで四日市市は、臨海部のコンビナートから内陸部の半導体、自動車、電機、機械、食品など、実に多様なものづくり産業が立地をし、こうした幅広い製造業の集積が四日市市として最大の強みだと思っております。これは、企業立地奨励制度等によりまして、製造業中心ですが、新規企業の誘致、あるいは既存の企業の設備投資の促進といったことに重点的に支援を行ってきた成果でもあると自負をしております。

昨年度は、条例で企業立地促進条例を改正いたしまして、奨励制度を拡充したところです。具体的には、航空宇宙産業や次世代自動車、あるいは次世代半導体、こういった将来、非常に成長が見込まれる産業に関する事業や、高シェアを誇る製品を生産する事業等を、奨励制度の重点分野として指定をいたしまして、企業立地奨励金を拡充交付する内容を新たに設けることで、競争力の高い企業の誘致、創出、別の言い方をすれば、産業の多様化ということも目指して施策を進めているところであります。

この重点分野における最近の企業誘致の実績例としましては、知事もご

承知のとおり、東芝が今年の3月、新たな製造棟の立地を四日市に決定した旨、発表されたところであります。

私自身も何度も東芝の本社に出向きまして、社長や役員と直接会って、トップセールスを展開するとともに、担当の部局としても、事前協議の中でさまざまな相談にワンストップで応じたり、できる限りの支援を続けてまいりました。もちろん、知事にも大変お力添えをいただいたことも大きいわけですが、その結果、国内あるいは海外の他都市との厳しい誘致合戦に打ち勝って立地が決定したことに、私としても感無量の思いがしております。

東芝からは、今後3年間で約3600億円の投資が見込まれると発表されておりますが、新聞報道等によりますと、共同運営するウエスタンデジタル社と合わせますと、1兆数千億円の投資と言われております。3次元のフラッシュメモリーの専用工場として、先日、竣工しました新第2製造棟、これとあいまって、こうした桁違いの設備投資が、雇用の増や税収の増に加え、地域経済の活性化にも大きくつながるだろうと確信をしております。

一方で、こうした大企業だけではなく、やはり意欲ある中小企業に対して、きめ細かな支援策を充実して、競争力を強化するという視点も大変重要です。新技術、新製品の研究開発や、人材育成に向けての支援に加えまして、現在、海外への事業展開に意欲あるものの、経験のない中小企業が安心して海外進出できる環境をつくるため、海外都市との経済分野における連携協定の締結を検討しているところです。

特に、発展のめざましい東南アジア、ASEANに焦点を当てまして、調査研究を進めてきましたが、その結果、ベトナムの都市を候補として考えているところです。この8月21日、3日後になりますが、私自身がベトナムを訪問して、ベトナムの都市との経済交流に向けて、国の計画投資省外国投資庁と覚書を取り交わす予定をしております。

このほか、起業を目指す方への支援、特に今年度は女性の起業家を目指す方への支援として、さまざまな講座の開催であるとか、新たな事業を起こす人材の発掘、養成、こういった面にも力を入れておるところであります。

以上、四日市の産業政策について、最近の動きを中心にご紹介をしましたが、今後、本市の産業集積を一層高めるために、道路の整備による物流の円滑化も非常に重要だと思っております。その意味で、四日市にとりまして最重要道路の一つが、国道1号北勢バイパスであり、これまで県とも連携をさせていただいて、国に対し粘り強くその早期整備を要望してまいりました。

その結果、昨年3月には、日永八郷線までの区間が開通をして、平成

28年度は、予算枠の上限を超えて、約21億円が措置をされたところです。知事にも大変ご尽力をいただいております。改めてお礼を申し上げます。ありがとうございます。これからもよろしく申し上げます。

話が大変長くなりましたが、ここで産業振興に関しまして、具体的な提言をさせていただきます。まず、今後、成長が期待される産業としての航空宇宙産業、あるいはロボット産業についてであります。四日市におきましても、市内の企業が、こうした成長分野へ新規参入する際の研究開発や、認証取得に係る支援を始めたところです。

しかしながら、特に航空宇宙産業は、参入するにあたり高度な技術や人材の確保もさることながら、品質マネジメントシステムの規格、いわゆるJISQ9100に基づく品質管理であるとか、国際的な工程認証プログラムNADCAPと呼ばれているこのプログラムの認証取得などは、簡単に行えるものではなく、非常に参入障壁が高い産業と言われております。

こうした事情を鑑みますと、航空宇宙産業やロボット産業への新規参入を目指す企業への支援を行うためには、やはり今全国屈指の産業都市である四日市市と三重県さんが、成長分野の産業の振興戦略を共有することが肝要ではないでしょうか。支援の相乗効果が得られるように、ぜひ、今後、関連企業の発掘と育成を連携して行うなど、さまざまな視点から緊密に連携した取組を行っていきたく強く考えております。

別の言い方をしますと、県の産業支援制度と四日市市の産業支援制度に関しまして、一層の整合性を図りながら、相乗効果を高めて、企業が使いやすい支援制度にしていくことが重要だと思います。

そこで、例えば、先ほど申し上げた航空宇宙産業やロボットの関連産業、あるいは、四日市の石油化学コンビナートが大きなポテンシャルを有しております水素の関連産業など非常に将来有望な成長産業への支援、あるいは、製造業のマザー工場化への支援などにおいて、お互いにこの産業振興策、支援制度を企画・立案していく段階から、情報交換、意見交換を密にしていくこと、そのことをぜひ提案したいと思いますが、この点に関して知事のお考えをお聞かせいただければと思います。産業振興に関しては、以上です。

知 事

ありがとうございます。何点か産業振興でありましたが、いずれにしてもさまざまな分野で田中市長をはじめ、四日市市の皆さんに多大にご協力をいただいていることに、改めて感謝を申し上げたいと思います。

順番が前後しますが、まず、おっしゃっていただいた東芝の誘致合戦におきましては、本当に激しい誘致合戦である中で、市と県が連携をして勝

利をすることができたと。それにあたっては、東芝の工場周辺の地権者の住民の皆さんに対する説得とか用地交渉が非常に重要であったわけですが、それを四日市市の皆さんが、職員の人たちもたくさん出していただいて、丁寧に、そしてスピーディーに対応していただいたことが、その誘致を勝利するに至った大変大きな要因になったと思っております。改めて感謝申し上げます。

それから、何点かございましたが、まずは、北勢バイパスについては、本当におっしゃっていただいているとおり、産業の立地を進めていくためにも、その物流がしっかりしていくことが大変重要でありますので、北勢バイパス、我々も県の国に対する道路要望の中で、北勢地域の最重要道路と言っても過言ではない北勢バイパスでありますので、これからも未事業化区間の新規事業化に向けて、それから、全体の事業化されている部分の早期対応を含めて、しっかり働きかけをしていきたいと思っております。それから、お話にありました8月にベトナムに行っていたということですが、私どもも今のところ、11月ぐらいを念頭において、私自身もベトナムのほうにまいらせていただきたいと思います。

これは、サミットのときにフック首相が初来日、しかも初外遊でこの日本のサミットにアウトリーチで来られて、伊勢神宮を訪問し、私どもと対談をしていただいたことに端を発しておりますが、その中身においては、まさに市長が今回、締結していただく計画投資省外国投資庁との覚書や経済交流を進めていこうというような話がありましたので、11月、私どももまいらせていただいて、今回の四日市市さんの取組を更にフォローアップさせていただきたいと思っておりますし、今、ベトナムの方々の観光の消費額というのが非常に上位になっておりますので、ぜひ、そういう縁で観光も進めていきたいと思っておりますし、あわせて三重県の食材の売り込みなども行っていきたいと思っております。

ベトナムのハノイの近くにハイフォン港と四日市港の航路がありますので、さまざまなこの四日市や三重県とのつながりもあります。四日市市に本社を置いている住友電装さん、それと、世界グローバル全体の従業員の10分の1がベトナムにいるということもありまして、非常に縁の深い三重県や四日市、ベトナムでありますから、ぜひ経済交流を更に促進していきたいと。県としても市と情報共有をしてやっていきたいと思っております。

それから、まず航空機産業につきましては、去年の3月、「みえ航空宇宙産業振興ビジョン」というのをつくらせていただいて、まさに新規参入というのが非常に重要な課題だということで、三重県としては5年で30社、10年で70社、この航空機分野に新規参入、事業拡大をしてもらう目標で現在取り組んでいます。大きな柱の一つは、まず人材育成です。人材

育成は、この専門機関、国内外の専門機関と連携した技術者育成講座、これは、ボーイングのあるシアトルの専門機関や、あるいは、岐阜県にある中日本航空の専門学校とかを含めた技術者の育成講座、あるいは、全日空と三重県との包括協定の中にも、この航空人材の養成は項目に入っていますので、こういうこともやっていきたいと思っていますし、マッチングの支援、設備投資の支援、こういうこともやっていきたいと思っています。

そのマッチング支援におきましては、現在、この2月に石垣副知事を団長として、四日市の企業もたくさん行っていただいたシアトルとサンアントニオのミッションのフォローアップに事務方、担当課長が行っておりますので、そのマッチングの落とし込みもしっかりやっていきたいと思えます。

それから、市長おっしゃっていただいた認証の取得 JISQ9100 とか、あと NADCAP とか、認証取得の補助金も県で準備していますので、さらに、そのコンサルティングも含めてしっかり認証取得に取り組んでいきたいと思えます。

それから、ロボットは、とりわけ介護分野での活用を期待をしています。

この10月に三重県津市で行われます認知症サミットに、内外の研究者が集まっていますが、その大きなテーマの一つが、ものづくり技術で認知症とか介護に立ち向かっていこうということで、この最先端のロボット技術を生かした介護とか認知症対応というのも、大きな柱になる予定でありますし、この内容は、この夏に行われた全国知事会の国への提言の中にも、緊急提言に盛り込ませていただきました。ものづくり技術を使った介護、あるいは高齢者認知症対策強化というのを掲げさせていただきましたので、こういうものもしっかりロボット技術を利用した介護機器の開発をやっていきたいと思っています。

実際、三重大学とかAMIC、工業研究所、こういうところでやらせていただいた開発を四日市市内の企業が、センサー技術を使って開発した転倒通報装置、高齢者が転倒した場合の通報装置を、圏内の老人福祉施設での実証実験を行うなどの事例も生まれてきておりますので、こういうものもしっかり活用して、さらにロボットの分野を前に進めていきたいと思えます。

それから、水素につきましても、この3月に三重県新エネルギービジョンを改正いたしまして、水素に更にしっかり取り組んでいこうと。去年の3月に「みえ水素エネルギー社会研究会」というのを設立いたしましたので、四日市市さんも検討会を設置していただいたということで、大変心強く思っておりますし、本県も参画していこうと思っておりますので、ぜひ、具体的取組に係る連携を進めていきたいと思っております。

とりわけ、住友電装さんとか三重トヨタさんなどを中心に水素ステーションを四日市につくっていただきましたので、ぜひ、来るべき水素社会に向けて連携をして取り組んでいきたいと思ひます。

それから、マザー工場につきましては、県のマザー工場の補助金なども、四日市市内の企業 J S R とか、あと不織布、おむつなどのサンレックスとかも活用していただいておりますので、さらに四日市の企業が、このマザー工場化していけるような支援を四日市市さんと連携して取り組んでいきたいと思ひます。

いずれにしても、三重県経済を牽引していただく四日市、ここの競争力が高まっていくことが、県全体に波及することは間違いありませんので、ぜひ連携して取り組んでいきたいと思ひます。

四日市市長

知事のほうからお答えいただきましてありがとうございます。まず、ベトナムの都市との連携についてですが、最初は経済交流の中でも、ものづくりの企業が中心になると思ひますが、サービス業であるとか、そのあとは観光とか、別の観点からの交流も進めたいと思ひておりますので、11月に知事が訪問されるのであれば、フォローしていただいて、特に、知事からも先ほどご紹介があったように、ハイフォン港と四日市港の関係もありますので、今、ハイフォン市は提携先として四日市も有力な都市の一つであると考えていますので、そのことも含んでいただいて、フォロー、ご支援をいただければありがたいと思ひております。

認知症サミットのお話もありましたが、これは四日市市もかかわってきます。介護用ロボット産業は、特に四日市は非常に将来、どんどん伸ばせる有望な産業であって、ポテンシャルも高いと思ひますので、先ほどご提言をしましたように、その振興策、支援制度において、企画段階から市と連携していただくと大変ありがたいと思ひております。よろしくお願ひします。

2 学力向上について

四日市市長

それでは、引き続きまして、2つ目の学力の向上について発言をさせていただきます。四日市市におきましては、昨年度から四日市市総合教育会議を開催いたしまして、昨年の11月に四日市市版の教育大綱を策定いたしました。この大綱は5つの理念を定めておりますが、時間の関係もありま

すので、四日市の特徴的な2つの理念についての紹介をさせていただきます。1つは、夢や志の実現に向けた、自ら学び続ける意欲、態度の涵養という理念です。

何のために学ぶのか。学ぶことの意義とは何かという根本のところから考えていかなければ、心の底から学びたいという意欲は湧いてきません。社会とのつながりを意識しながら、人生に夢や志を持って、それを実現していくために、学ぶことがいかに必要かつ重要かということから気づくことが、主体的で強い学習意欲につながるものと考えます。そのことを踏まえ、目的意識を持って学び続ける人材の育成を目指していきたいというのが一つです。

もう一つは、都市の特長を生かした四日市ならではの教育の推進という理念であります。先ほどから申し上げているように、四日市の産業都市としての特徴を生かしつつ、さまざまな産業と連携をしまして、その人材を活用した教育や、経済発展と環境保全を両立させるまちづくり、公害の経験を生かしたまちづくりの取組や成果を学ぶ環境教育。さらには、JAXAとの連携や地域資源を生かした科学教育など、四日市独自の魅力ある教育を展開して、ふるさと四日市への誇りや郷土愛を育むとともに、社会の一翼を担う人材の育成を目指していきたいと思っております。

さらに、こうした四日市市教育大綱の理念を踏まえ、社会人になっても通用する問題解決能力の基礎となる知識や技能、知恵を、いわゆる学力と定義をいたします。これは四日市の学力の定義ということになりますが、その確かな学力の定着を図るために、「学力向上アクションプラン」というものを策定いたしました。このアクションプランは、6つのアクションで構成をされておりますけれども、時間の関係で詳しくは割愛をさせていただきますが、この6つのアクションを教育現場において具体的に着実に実践をしております。

例えば、わかりやすい授業を実現して、子どもたちの基礎学力を向上させるために、平成21年に全国に先駆けて電子黒板を全小中学校に導入をして、教育を開始いたしました。この導入後に、小学校6年生の算数において、効果を検証する授業も実施をいたしました。具体的にどうということを行ったかといいますと、成績の中位のグループは、電子黒板を使わない従来型の授業を実施し、成績下位のグループに対しましては、電子黒板を活用した授業を実施した後、試験を行いました結果、成績下位のグループのほうが、成績中位のグループよりも正答率が高くなったという結果が出ておまして、電子黒板の学力向上効果が実証されたと考えております。

こういった確かな成果を踏まえて、電子黒板だけではなく、その他のICT教材の活用を更に進めていきたいと考えております。

また、子どもたちの読解力・要約力、表現力を高めるために、四日市独自だと思いますが、読書の1分間コメントという手法も導入をして、言語能力の育成強化を図っておりますが、今年は表現力やコミュニケーション能力を高めるために、夏休み期間中の今月20日、あさっての土曜日になりますが、初めて中学生のスピーチコンテストを開催する予定です。

さらに、四日市市とJAXAとの連携協定を活用いたしまして、子どもたちに科学的な観点や考え方を身につけてもらうために、夏休み中に「子ども科学セミナー」を開催したり、JAXAや企業の方を講師に招いて、理系の人材の育成のための授業を実施したりしておりますが、今後ともものづくりの拠点都市として、科学教育や理科教育の充実には、しっかり力を入れていきたいと考えております。

一方で、教育環境の整備の面では、夏になりますと毎年猛暑ですが、こういう状況にあっても良好な学習環境を確保するために、教室のエアコンの整備に着手いたしました。図書室、視聴覚室、音楽室といった特別教室への整備を今年度で完了いたしまして、続いて、普通教室への設置に向けての検討を始めたところです。

教育制度の面におきましては、一昨年の1対1対談の際に、私からも要望をして、知事のご尽力によって実現をした県立工業高校における専攻科の設置については、産業都市である本市にとりましては、非常に将来大きな効果をもたらすものであると思っておりますし、改めて感謝を申し上げたいと思っております。

本市のみならず、この北勢地域は、ものづくりの拠点ですので、この地域の即戦力となる優秀な理系人材の確保につながることに大きな期待を寄せております。

以上、四日市の教育に係る取組を述べてまいりましたが、ここで、教育の質の向上、教育環境の充実、教育制度の整備という視点から、県に対する具体的な提言、要望をさせていただきたいと思っております。

まず、少人数学級に対してです。現在、県においては、小学校1、2年において、30人学級、中学校1年において35人学級を実施していただいておりますし、また、算数、数学、英語は、少人数指導ができるように非常勤講師を配置していただいております。

一方、本市では、小1プロブレム、中1ギャップに対応するために、県の措置に加えまして、小学校1年生、中学校1年生で市独自、下限を撤廃した形で30人学級を実施してまいりました。保護者の皆さんからは、非常に評判がよくて、一人ひとりに目が行き届いた教育が行われ、落ち着いた学校生活を送ることができている。あるいは、家庭との連携が図られることで、課題にいち早く対応することができている、こういった声もいただ

いております。

ちなみに、少人数指導を実施している中学校の数学と英語の全国学力・学習状況調査、また、英語のC R Tの結果において、四日市は安定して全国平均を上回る結果となっております。

このように少人数学級、少人数指導の教育環境を整備することによる教育上の効果は非常に高いと思われることから、未来を担う子どもたちへの先行投資という観点で、子どもたちの学力向上のために、県の実施されている「みえ少人数学級」、「少人数加配学級」の制度を更に拡充することを前向きに検討していただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

もう一つ、教育に関して、英語教育環境の充実についても申し上げたいと思います。四日市市におきましては、学力向上アクションプランに「英語教育環境の充実」という項目を掲げまして、中学校の卒業時に、日常生活に必要な基本的な英会話力を身につけることを目指しております。

そのために、英語学習のステップアップを多角的・効率的にサポートできる、いわゆる「英検 I B A」は高い効果があると考えております。

昨年度の国の調査結果におきまして生徒の英語力が全国 1 位の千葉県では、英検 I B A を中学校全学年で実施できるように、平成 27 年度から、県による予算措置を実施していると聞いております。三重県におかれましては、財政難と聞いておりますので、大変恐縮ですが、真にグローバルな人材育成の基盤として、三重県におきましても中学校での英検 I B A の実施に向けて、ぜひ、来年からというわけにはいかないと思いますが、計画的にご検討いただきたいと思いますが、いかがでしょうか。知事のご見解をお伺いしたいと思います。教育に関しては、以上です。

知 事

ありがとうございます。さまざまな教育の取組をやっていただいております。とりわけ、英語教育や J A X A との協定、科学教育などについて、非常に四日市ならではの取組をしていただいております。敬意を表したいと思います。

あわせて、市長からもご提言いただきました工業高校専攻科設置、これにつきましては、平成 30 年度開校を目指して、現在、準備をさせていただいております。

今回は、特徴として地域の企業とのネットワークとか、地域の企業の皆さんに協力をいただいた形での実践的な、本当に意味のある工業高校の専攻科にしていきたいと思っておりますので、ぜひ、四日市市さんをはじめ、四日市市内の企業の皆さんにもご協力を賜ればと思うところであります。

学力全般につきましては、いずれにしても、児童生徒も学校の先生たち

も校長先生やマネージメント層も教育委員会の皆さんも、やればできるという達成感を味わっていただくのが大変重要だと思います。さまざまな観点で学力を見つめつつ、それをいろんな指標で見えていく。そして、生き抜いていく力をその子どもたちに養ってもらおう。全ては子どもたちのためであり、子どもたちの未来を切り拓いていくために、大人も含めてどう頑張っていくかということで、その過程において、やればできるという達成感をいかに感じていただくか。

もうすぐ全国学力・学習状況調査の発表の時期が来るわけですが、私もまだ結果は聞いてないのでわかりませんが、昨年は、少なくとも全県の皆さんに協力をいただいて、やればできるという一定の授業の改善性は、とりわけ国語Bとか算数Aにおいて、みんなで組織的に取り組めばいけるんだというのを感じていただいたので、今年もそういう結果が出ることを期待をし、そして、みんなでやればできるという気持ちの好循環をつくっていけるようにしていきたいと思います。

こういう中で、家庭学習環境の整備については、少人数学級のことを市長からご提言を賜りました。県のほうもずっと小学校1、2年生の30人学級、中学校1年の35人学級、全国に先駆けてやってまいりました。特に平成24年度からは、国の加配定数も活用して、小学校2年生の36人以上学級を解消しています。あと、下限25人という設定によって、この少人数加配とか非常勤講師の配置も、一定の目的とか意義を設定して、そこに加配するというようにしていかないといけないんじゃないかと思っていまして、やはりその範囲においてチームティーチングとか、習熟度別の授業とか、あるいは、少人数学級編制の対象とならない学級とか、そういう一定の意義を見出す中で、そういうところを非常勤講師とか少人数加配をこれからも優先的にやっていきたいと思っておりますし、国にも学級編制標準そのものの引き下げなども要望していきたいと思っております。厳しい財政状況ですが、少人数教育を後退させないように、加配教員の確保にも努めていきたいと思っております。

それから、英検IBA、英語の関係だと思いますが、三重県でもCAN-DOリスト、あるいは全中学校を対象に教員研修、英語キャンプ、英語でワンペーパーコンテストなど、さまざまな形でやらせていただいております。とりわけ好評を博しているのは、レゴブロックを使ったストーリースターターというコンテンツを使っての英語教育については、今、県内いくつかの市町で、モデル事業でやっていただいております。いずれにしても、英語に触れる、そして、英語能力を高めていく機会をたくさんつくることは重要であろうと思っております。

先ほどワンペーパーコンテストも県内58校から853の作品の応募があり

ましたので、こういうのでどんどん英語の機運を高めていきたいと思いません。

英検 I B Aにつきましては、一定の効果があると我々も認識しておりますが、外部検定試験を活用することにつきましては、いろんな各種検定試験の特徴や費用もありますし、各地域それぞれの生徒の状況もありますので、全県で一律というより、まずはそういう特徴や費用に関する情報提供をしっかりとさせていただいたり、国の委託事業を活用した教員の研修を通じて、英検 I B Aに関する意義などを知ってもらうということからぜひスタートをしていければと思っておりますが、四日市さんが県内で先んじて、英語教育を牽引する存在としてやっていただくことは、大変我々としてもありがたいですし、大いに期待を申し上げているところですので、何とぞよろしくお願い申し上げます。

四日市市長

ありがとうございました。教育というのは、すべての政策や施策の本当にベースになるものだと思っておりますので、教育の面においても、四日市の教育施策、県の教育施策がお互いに相乗効果が発揮できるように、施策あるいは事業の連携、役割分担といったことを十分に踏まえて進めていければありがたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

3 シティプロモーションについて

それでは最後のテーマ、シティプロモーションの取組について発言をいたします。

四日市市におきましては、独自の魅力を全国に広くアピールし、人や企業を外から呼び込み、町の活性化を図りながら、交流人口、ひいては定住人口の増につながるような動き、アクションを起こしておりますが、ここ数年、四日市ならではの観光やシティプロモーションに特に力を入れて、さまざまな施策に取り組んでまいりました。人口減少や少子化に歯どめをかけて、都市としての持続的な発展を目指していく、いわゆる地方創生、総合戦略の中にも産業振興であるとか教育福祉など住みやすさのレベルアップに加えて、四日市の場合は、シティプロモーションを大きな柱として位置づけをしております。このシティプロモーションというのは、地域の魅力であるとか、地場産品をPRするというだけでなく、都市イメージの転換、向上といった大きな目的を持っております。

知事もご承知のように、四日市は一步県外に出ますと、残念ながらまだまだ「公害のまち」というイメージが残っております。この都市イメージ

から脱却をして、明るい魅力的な都市イメージを展開していくための施策に、私自身も積極的にこれまで取り組んでまいりました。例えば、今年の3月にオープンをしました四日市公害と環境未来館も四日市公害の歴史と教訓を語り継いでいくという目的だけではなく、都市イメージという視点からも大きな目的を持った施設でありまして、きれいな空気や青空を取り戻した環境改善の取組や成果、また、蓄積してきた環境技術を生かした国際貢献など、これまでの取組を一連のストーリーとして広く情報発信をしております。

また、私は、市長に就任して以来、一軒ずつ教科書会社を訪問しまして、その記述の中身について、公害の被害や裁判など、当時の状況だけではなく、その後の状況、大幅な環境改善の成果であるとか、産業の発展と環境の改善を両立してきたまちづくりの取組といったことも含めて、全国の子どもたちに正しいトータルな情報が伝わるように、教科書の記述をぜひ加筆をしてくださいとお願いする要望活動を続けてまいりました。

その結果、主要な教科書会社におきまして、大きく改善がなされました。この活動の積み重ねは、四日市の都市イメージの改善に直結するものだと私は確信をしております。

また、最近では、四日市の都市イメージの向上の一環として、実際に本市をより美しくしていくために、懸案課題でありました中心商店街のごみ集積場の美化を図ったり、中心市街地を対象として路上喫煙の禁止に関する条例を制定したりしております。

また、さらに、この7月からは客引き防止条例を施行しているのも、ビジネス客や観光客の皆さんの本市に対する都市イメージを意識してのことでもございます。

さらに、北部の清掃工場の老朽化と南部埋立処分場の容量の減少に対応しつつ、環境負荷を最小限に抑える総合ごみ処理施設として、四日市市クリーンセンターをこの4月から稼働をさせております。この施設は、単にごみを処理して美しい町を維持するだけの施設ではなく、ごみ発電によるエネルギーの活用、あるいは資源の再利用、リサイクルを行いまして、循環型社会の形成にも貢献するものであります。

一方で、都市イメージの転換・向上を図るために、観光や文化を中心としたシティプロモーションにも取り組んでおります。例えば、コンビナートの工場夜景を観光資源として着目し、平成22年からスタートをいたしましたコンビナートの夜景クルーズは、特に市外、県外からのお客さんが多く、平成26年には、累計の乗船人数が1万人を超えましたし、この秋には2万人に達する見込みとなっております。

また、四日市港管理組合におきましては、今年の4月から四日市港の臨

港地区内の分区規制の制度の見直しが行われて、一部の区域ではレストランやコンビニ、あるいは喫茶店、こういった集客施設を設置することができるようになりました。四日市港内には産業遺産であるとか文化財、こういったものがたくさんあります。そうしたものを活用したシティプロモーションのこれは大きな弾みになるものと期待をしております。

さらに、近年は、映画のロケ地としても注目をされておまして、多くの映像作品の舞台になることによって、シティプロモーションや都市イメージの向上に一役買ってもらえるのではないかと考えております。

加えまして、日本一線路幅の狭いあすなろう鉄道を観光資源として活用したり、また、文化の面では、家族と絆をテーマとした非常にユニークな全国ファミリー音楽コンクールを毎年開催したりするなど、四日市独自の観光文化の魅力を発信することによって、都市イメージの向上を図る取組を進めております。

特に、この全国ファミリー音楽コンクールは、当日の盛り上がりもさることながら、出場者を募集するそのプロセスにおきまして、ポスター、テレビ、ラジオ、新聞、雑誌、あらゆる媒体を通じまして、産業都市、工業都市である四日市市が全国規模の音楽コンクールを毎年開催していることを、全国に向けて強力に発信して、そのことによって、毎年、全国の約200万人ぐらいの方々が、この情報を目にし、耳にしている。そのことが四日市の文化力、文化の魅力によって文化面での都市イメージの向上に大いに貢献しているのではないかと考えております。

また、スポーツ面におきましても、三重とこわか国体に向けて、新たなスポーツ施設の整備も四日市の新たな魅力になり得るものと考えておりますし、知事も冒頭おっしゃいましたが、今後、環境の国際会議だけではなく、スポーツの全国レベルの大会の誘致なども視野に入れて、スポーツ面でのシティプロモーションにも力を入れていきたいと考えております。

以上、四日市のシティプロモーションの取組をかなり詳しく述べてまいりましたが、最後に、知事に1点お尋ねをしたいと思います。

先般、5月の伊勢志摩サミットは、知事をはじめ、多くの方々のご協力によりまして、安全かつ大成功のうちに終了できましたこと、大変喜ばしく、今後の三重県の発展の大きな起爆剤になったと思います。

四日市市としましても、四日市公害と環境未来館がジュニアサミットの視察・研修会場となり、そのことを今後のシティプロモーションや都市イメージの向上にも大いに生かしていきたいと考えております。

そこで、先に述べましたような本市のシティプロモーション施策を踏まえまして、例えば、何度も申し上げますが、大規模な国際会議、あるいは外国のクルーズ、大型客船の誘致も含めて、四日市のポテンシャルを最大

限生かした、県と市が連携していくべき、このシティプロモーションに関する取組について、知事のお考えをお聞かせください。

知 事

ありがとうございます。四日市市のシティプロモーションを一生懸命、さまざまな角度の取組をしていただいていることに敬意を表したいと思いますし、更に加速をしていただければと思うところであります。

我々も非常にこういうプロモーションのときに配慮していかなければならないことは、自分たちが好きだと思ふまちじゃないと、外の人には来てくれないと思ふしますので、じゃらんの統計でもそのように出ていまして、自分の地域を好きだという人の割合が高いと、訪問率が高いので、四日市市の皆さん、そして三重県民の皆さんに自分たちのふるさとが好きだと思ふてもらふようなことも、合わせてしっかり教育の場面を含めてやっていかなければならないと、改めて今、非常に多岐にわたってやっていただいているお話をお伺いして、私も意を強くしたところであります。

国際会議と外国クルーズ客船誘致ですが、まず、インバウンドにつきましても、平成27年は、県全体で39万人、これは通年での対前年伸び率が、全国2位、サミット決定後の7月から12月、下半期の対前年度伸び率は全国1位となっております。伊勢志摩にたくさんの方が泊まってもらっているイメージですが、これは公表資料にはありませんが、我々のいろんなところからの分析によれば、約5割は北勢地域に宿泊をしているということですので、まさに北勢地域がインバウンドや外国人の皆さんをお迎えする玄関口であり、チャンス到来の時期であろうと思っております。

その中で国際会議につきましても、やはり基本的に四日市市は国際会議を開催するにあたっての、例えばドームであるとか文化会館であるとか、いわゆる会議施設に県内の中でも非常に恵まれている場所であるということ。それから、外国人の方が非常に好むシティホテルなどが多数立地しているということ。それから、ナイトライフ、外国人の人は夜遊ぶのが好きですから、居酒屋とかバーが充実しているということで、MICEを誘致するに当たっての基本的なインフラとして極めて恵まれた状況にあると思っておりますので、四日市さんと連携をしてやっていきたいと思ふし、また、ユニークベニューみたいな、ちょっと変わった場所でやるような国際会議がはやっていますので、そういう伝統文化とかも含めて、非常にたくさん資源のある四日市ですから、ぜひ我々も四日市さんと連携をして、このMICEの誘致に向けてしっかり取り組んでいきたいと思ふし、四日市市のポテンシャルに大変期待をしているところであります。

外国クルーズ客船の誘致につきましては、四日市港客船誘致協議会に県も参画をさせていただいておりますが、私が管理者で市長が副管理者である四日市港管理組合の今年度予算には、大型客船が四日市港へ入るための調査を入れておりますので、調査をしてオッケーとなれば、客船が入れるというお墨付きをいただけることとなりますので、ぜひ、そういう調査の結果を踏まえてということと、あと、今回の国の経済対策でも、クルーズ船誘致に一定の予算が付くようでありますので、そういうものにもらみながら、四日市市さんと協力をしてクルーズ客船の誘致に取り組んでいきたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

四日市市長

ありがとうございます。シティプロモーションについては、知事もおっしゃったように、やはり市外、県外、全国、世界へ四日市の魅力を発信していくということももちろん柱になりますが、それだけではなくて、そのもとのところを市民の皆さんが自分の住んでいるまち、ふるさとに愛着を持つ、そして、誇りを持つ、そういうことが市外への情報発信力を高める原動力になると思ひます。先般、四日市市の観光シティプロモーション条例というものも策定しましたが、その中には、市民の皆さん自身が、自分の住んでいるまちに誇りを持つような、そして、四日市に来ていただいた方におもてなしの心で対応していただくような、そういうことを醸成していく、そんな条文も含まれておりますので、まず市民の方、そして、それを基盤に市外に魅力をアピールしていく、そういうことを頭にしっかり位置づけをしながら、四日市版の、四日市流のシティプロモーションをこれからもぜひ推進していきたいと思ひしております。役割分担と連携という視点で、知事にも四日市のシティプロモーションに大いにご協力をいただくことをお願ひしたいと思ひます。ありがとうございます。

(4) 閉 会

知 事

今回、田中市長と1対1対談をさせていただくのは6回目ですが、おそらく今回が最後の対談ということになります。これまで本当に四日市市政を引っ張っていただき、本当にさまざまな大変なこともあったかと思ひますが、リーダーシップを発揮していただいた田中市長に改めて敬意を表したいと思ひます。

また、県ともしっかりと連携をした施策を進めていただいたことにも、改めて感謝申し上げたいと思ひます。ありがとうございました。

この6回の中でも、昨年の工業高校専攻科の設置をはじめとして、大変有意義なご提言を多々いただいた、そんな6回だったと思っております。ぜひ、これからも四日市市と三重県との連携、あるいは、四日市市、三重県の発展に向けた取組に終わりはありませんので、引き続きご指導賜りますようによろしくお願い申し上げたいと思います。

本日は、どうもありがとうございました。